

遠く離れていても「思い」つながらる…

ずっとつながっていくための「くらし応援募金」

被災された方々の生活再建には、長期に渡る多様な支援が必要とされています。支援活動を支える「くらし応援募金」は誰でもできる取り組みです。被災地と私たちがずっとつながっていくために、これからも続けていきたいと思っています。

つながろうプロジェクト 山村まこと理事

福島の子どもたち保養企画 in ぎふ

2012年12月末、福島の親子35名を2泊3日で岐阜にお迎えし、保養企画を行いました。



参加した方からの手紙

福島では未だに放射能のことを考えながら毎日生活しております。しかしこの3日間は「放射能があるから早く手を洗って!」と怒らずに、葉や土やものに触れさせることができました。親も子も、ストレス発散して帰れます。コープぎふの皆さま、とても温かく迎え入れていただいて、本当にありがとうございました。(Kさん)

参加者からの手紙

今の福島を少しでも知ってもらいたい
つながっていきけたら

今回の企画はともありがたく、本当に楽しい2泊3日の保養でした。コープぎふのみなさまには感謝の気持ちでいっぱいです。(中略) 私事の現況ですが、参加させて頂いた子の下に妹がおりまして、今年4月から入学です。

福島の放射能による影響や、福島県民(福島で育った)という事からも子ども達を救いたいというか…。将来の事を考え、4月から引越す予定です。なかなか、震災後すぐ決断できず、今迄きてしまいました。定住するか未定です。これから福島は除染がはじまる予定です(まだ現在の所何も進んでおりません)。せめて、線量が高くなるだろうと予想される除染期間だけでも移住する予定です。

ただ、主人も私も福島での仕事を变えてしまっは生活の基盤がたたなくなることも考えられるので、福島に通える範囲で。と悩み、隣の宮城県白石の雇用促進住宅に入居することにしました。線量だけで考えるなら、もっと遠くへ移住したい気持ちですが、収入面を考えると、なかなか簡単に決断できないところです。今の福島の現状を少しでも知っていただけたら幸いです。

ぎふのみなさんとは、これからも繋がっていったらなあと思っております!!こちらにも雪が多いですが、みなさんのご健勝を心よりお祈りしております。

震災支援ボランティア活動

宮城県気仙沼市本吉町の仮設住宅で、岐阜の自慢料理(五平餅、ケイちゃん、味噌煮込みうどん)を食べていただきながら、交流しました。



ボランティアに参加した職員の水野さんのコメント

岐阜の料理は大好評で、「都合で参加できない人にも食べさせたい」というお声いただきました。会が終わったあと、子どもたちと一緒に仮設住宅を個別訪問し、五平餅をお渡ししました。とても喜んでいただけました。



職員 高橋さんのコメント

今回のボランティア訪問は4回目でした。本吉町のみなさんの笑顔にふれるたび、東北と岐阜の距離がどんどん近くなっています。つながっています。

被災地の「ふれあい喫茶」にお菓子をお贈りしました。

仮設住宅のコミュニティづくりを支援する取り組み「ふれあい喫茶」に、月に一度岐阜の銘菓とメッセージをお贈りしました。

被災地の方からのメッセージ

「岐阜のお菓子をいただきながら、岐阜に思いを馳せています。遠く離れていても、つながっている感じがします」
(現地ふれあい喫茶にて)



ふくしまキッズ博

不安とストレスをかかえながら暮らす福島の子どもたちに「夢」「笑顔」「元気」をプレゼント!!コープぎふのキャラクター、マットくん、たまねちゃんが福島へ応援にいきました!



安心して住み続けられる福島を取り戻すための署名活動

2012年末までにみな様にご協力いただきました1万8439筆の署名を、福島県生協連を通して日本政府に届けました。



商品の利用を通して被災地を応援

福島のJA伊達みらいの桃をみんなで利用しました。

利用された組合員さんの声

「とってもおいしかったよ」
「こんな応援の仕方もいいよね。私たちも安心して買えるし…」



JA伊達みらい 桃部会様からのメッセージ

原発の風評被害に苦しむ福島の農家ですが、そんな私たちに二年目の夏がやってまいりました。『くだもの王国ふくしま』を代表する桃の季節になり、今年こそこの想いで生産者、JA、流通業者が一丸となって取り組んでいます。(略) 応援よろしくをお願いします。



配達時、「がんばろう日本」マークのお知らせをしています。どんな商品があるかわかりやすいですね。「しめさば買うわ!」とか「鮭買うわ!」とか「協力するね〜」と言った声がいろいろな班から聞こえてきました。ありがとうございます。(岐阜西支所職員 野村さん)



販売価格の2割が支援活動の資金となる「チョコボ」(ちょこっとボランティアチョコレート)を9号、10号で企画します。おいしく食べて、この地域に暮らしながら誰でも出来る支援活動です。
※詳しくは週刊コープぎふ9号、10号をご覧ください。